

**第4回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成21年度時点のものです。

| | | |
|---|---|-------------|
| 名 | 称 | 天童市学校給食センター |
| 所 | 在 | 地 |
| | | 天童市 |

1. 天童市学校給食センターの概要

- (1) 施設面積 センター棟：1999.64 m² 附属等：205.80 m²
- (2) 職員数 43名
- (3) 調理能力 6,500食/日（最大）
- (4) 業務開始 平成19年8月20日（新センターとして）
- (5) 厨芥リサイクル量 平成18年度（H17年11月からH18年10月）841,961kg
平成19年度（H18年11月からH19年10月）991,760kg
平成20年度（H19年11月からH20年10月）787,603kg

2. 取組の経過・概要

天童市学校給食センターでは、天童市内16の小中学校（小学校12校、中学校14校）に学校給食を提供している。給食内容については、各季節の行事にあわせた献立作りやバイキング給食の実施、地産地消の推進のため、天童産の食材をふんだんに利用した「天童デー給食」の実施、天童市農業協同組合と連携し、学校米飯給食に地場産の1等米を提供するなど、様々な工夫を凝らし、児童及び生徒の給食に対する意識を高める努力をしている。

しかし、このような取り組みの中にあっても、天童市給食センターでは例年800t程度の食料残さ（食べ残し）等が発生している現状がある。従来は、この食料残さを燃えるゴミとして廃棄処分を行っていたが、環境保護の観点から、ゴミとして処分するのではなく、食品循環資源として再利用することができないかを模索した。その結果、天童市内に所在するアイデンティ株式会社において、食料残さを回収し、家畜（豚）の飼料として再利用する取り組みを行っていたため、平成11年1月からアイデンティ株式会社に回収を依頼し、食料残さの再利用を行っている。

また、調理の際に発生する食料油の廃油についても、平成18年度より運送業者と協力し、バイオ燃料として再利用する取り組みも行っている。

3. リサイクルの具体的な取り組み

天童市学校給食センターでは、各小中学校から返送された残さに、調理の際に発生する食材のくずを合わせて、食品循環資源としてアイデンティ株式会社に回収してもらう。

その後、アイデンティ株式会社では、他の福祉施設や企業、旅館、ホテル等から回収した食品循環資源をまとめて飼料製造プラントで飼料にし、畜産業者がその飼料で豚を育て、ブランド豚（むげん豚）として、旅館・ホテルなどで消費している。（テンドウ式食品循環資源リサイクルシステム）概略図については別紙参照

4. 周辺等への影響力・普及力

天童市学校給食センターは平成11年より厨芥（ちゅうかい）を食品循環資源として再利用を進めているが、燃えるゴミとして処理するよりも、食品循環資源として回収する場合は割高であり、ネックとなっていたところである。そこで、厨芥の食品循環資源としての再利用についての取り組みを市内全体で推進するため、天童市では平成18年度より、「10DO（テンドウ）リサイクルプラン」を立ち上げ、天童市内で同様の取り扱いをする事業者について、報奨金を準備し、取り組みの拡大を図っている。この結果、市内の参加事業者の数は平成20年度については前年比で3件増加し、18件となり、拡大を見せている。

5. その他特記事項

天童市学校給食センターでは、下記のような地産地消を推進する取り組みをおこなっている。

- ① 学校給食に供する米飯について、天童市と天童市農業協同組合が負担して、地場産の1等米を使用している。
- ② 市内生産者と連携し、天童産の食材のみを用いた「天童デー給食」を実施している。
- ③ 天童市野菜研究会と天童市学校給食協会が契約を締結し、8品目の野菜（大根、白菜、きゅうり、なす、ねぎ、ほうれん草、かぶ及び小松菜）について、天童産のものを給食に提供している。
- ④ 今後、地場産米を使用した米粉パンの提供を検討中である。

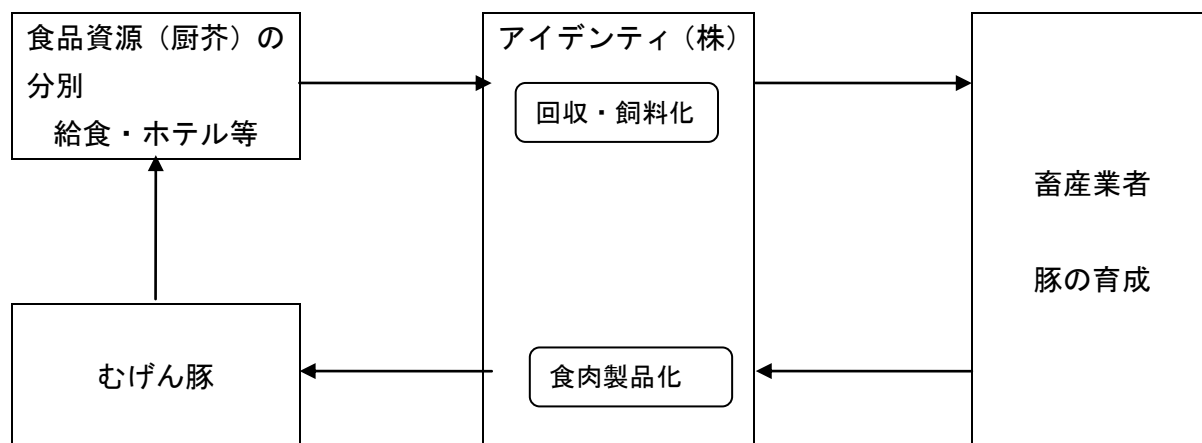
6. 取組の成果と展望

今後もこの取り組みを継続して行い、他の機関や団体と協力し、取り組みの拡大に寄与していく。

(別紙)



・ 厨芥再利用システム（テンドウ式食品循環資源リサイクルシステム）



・ 食用油（廃油）の運送業者への引渡し量

| | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 |
|-------|----------|----------|----------|
| 回 収 量 | 5,580ℓ | 3,560ℓ | 1,200ℓ |